

連携室だより

鹿児島医セン

鹿児島医療センター（循環器・脳卒中・がん専門施設）

2016.8 vol.124

南九州で初めて、レーザーシースによるリード抜去を当院にて施行

平成28年6月9日、当院で初めての「経静脈電極抜去術（レーザーシースを用いるもの）によるリード抜去」を行いました。これまで他県に依頼してきた手技が、鹿児島でもようやく可能となり、南九州では初めてのことです。

ペースメーカー等の不整脈デバイス治療の手術件数は全国で年間6万件以上が行われており、デバイス治療に関連した合併症も散見され、特に感染を合併した際にはリードを含めたすべての異物除去が必須であることは広く認知されています。

デバイス感染が起きると敗血症や感染性心内膜炎などを起こす恐れもあるため、リードを抜き取る必要があります。リードは植え込まれている年数が長い場合は、静脈や心臓の壁に癒着を起こし牽引しても抜けない状態になります。過度の牽引は血管損傷や穿孔といった致命的な合併症を引き起こす可能性が高く、開胸手術による摘出が行われていました。

エキシマレーザーシースによるリード抜去は、1997年FDAに認可されて以来、欧米にて急速に普及し高い成功率と安全性が報告されており、我が国においても2008年厚生労働省の認可を受け施行可能となり、施設基準があるものの2010年より保険適用となりました。

今回の症例は、ペースメーカーポケット部感染でジェネレーターが露出している患者さんで、心房リード、ショックリード2本、左室リードの計4本の抜去でした。不整脈グループチーフの塗木徳人先生が土浦協同病院に国内留学していた頃、一緒に仕事をされていた東京医科歯科大学の合屋雅彦先生を招いて、指導を仰ぎながら無事成功しました。合屋先生には、小倉記念病院に勤務されておられた頃の患者さんのリード抜去をお願いしておりました。

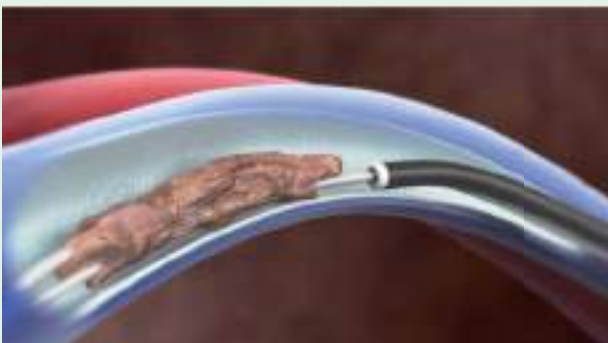
リード抜去は心タンポナーデ、鎖骨下と上大静脈の血管損傷や血気胸などの重篤な合併症があり、すぐに開胸して止血術を行わなければならないために心臓血管外科の待機下で施行が必要です。当院第一例目であり、田上和幸先生、山下恵里香先生を中心に勉強会、講習会、合同カンファレンス、シミュレーションを経てようやくこぎつけました。

今回はハートチームを含む多職種との総力戦でありました。麻酔科、皮膚科、心臓血管外科、放射線技師、看護師だけでなく、多職種スタッフ、特にカテ室と手術室のスタッフに協力を得て施行しました。皆さんには積極的に協力していただき、安全にスムーズに施行でき無事合併症なく終了することができました。また、ちょうど不整脈グループの外来日であったことから、第二循環器内科の皆さんにもご協力をいただきました。

もう一例指導医のもとで経験する必要はありますが、やっと鹿児島でもリード抜去が可能となりました。現在、当院はハイブリッド手術室を装備し、経皮的カテーテル弁置換術も準備中であります。

今後も、中央でできる治療を、鹿児島でもいち早く行うことができるよう精進したいと思いますので、今後ご支援賜りますよう宜しくお願いします。

（文責：鹿児島医療センター循環器内科部長 園田 正浩）



平成28年度 がん診療における医科歯科 連携講習会 第1回



鹿児島医療センターでは、平成27年度より鹿児島県がん診療連携拠点病院医科歯科連携推進事業を鹿児島県から委託され、平成28年度も本事業を継続して行っています。本事業の目的は、鹿児島県民へがん治療と口腔管理の必要性についての認識を広く普及するとともに、がん治療及び歯科医療に従事する関係者の資質向上と連携体制の構築を図り、医科と歯科の連携による適切ながん医療の提供を推進することです。本事業内容の1つであるがん医療の医科歯科連携推進のための講習会を平成27年度は3回実施してきました。平成28年度も昨年度同様に3回の講習会を予定し、この度平成28年7月9日（土）に鹿児島市医師会館大会議室において「平成28年度第1回がん診療における医科歯科連携講習会」を開催しました。

講習会は花田修一院長による開会挨拶により開演しました。初めに中村康典歯科口腔外科医長より平成27年度の本事業活動の報告および平成28年度の本事業活動内容について説明が行われました。続いて、千葉大学大学院医学研究科口腔科学講座丹沢秀樹先生を講師に招き、松崎勉耳鼻咽喉科部長の座長のもと、『周術期口腔機能管理の実際・効果と原理』と題して特別講演を行いました。昨年度の講習会のアンケートでより具体的な医科歯科連携の効果等についてのデータの提示の要望があり、事前に丹沢先生にはがん医療における医科歯科連携、口腔管理のデータに基づく効果についての講演をしていただくようお願いしていました。講演内容は我々が期待していたもので、がん診療における医科歯科連携、口腔管理の具体的な医療効果について講演いただきました。また、中央社会保険医療協議会専門委員の立場から今後の医療行政としての医科歯科連携の推進についての話もいただき主催者である我々だけでなく今回の参加者にとっても非常に有意義な講習会となりました。

今回の講習会も昨年度と同様に、医師、歯科医師、看護師をはじめ多くの職種の方々が参加され約130名の医療関係者の参加を頂き、盛況な講習会が開催できたのではないかと考えております。本講習会の第2回目を平成28年10月15日（土）に鹿児島市医師会館大会議室で予定しています。内容は抗がん剤治療と口腔管理をメインテーマに企画しています。詳細が決まり次第ご案内をさせていただきます。

最後に、本講習会開催にあたり、ご協力、ご支援頂きました院内各部署および、各施設、団体に厚く御礼申し上げます。また、今後の本事業に対するご理解、ご協力、ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

（文責：歯科口腔外科医長 中村 康典）



平成28年度 鹿児島医療センター附属鹿児島看護学校

第1回

オープンキャンパスを終えて

オープンキャンパス実行委員 宮本 佳苗

平成28年7月17日に高校生・社会人を対象にして、平成28年度第1回オープンキャンパスを開催しました。このオープンキャンパスは、「本校について知ってもらい、興味を持ってもらう」という目的のもとに行いました。天候が悪い中163名の方が来られました。

今回のオープンキャンパスは、学校紹介、看護技術体験、在校生との交流会を行いました。学校紹介では、6月に実習しました基礎看護学実習Ⅱ（看護過程の展開）の学びや、学校生活の様子などを説明しました。看護技術体験として心音・呼吸音聴取、血圧測定、体位変換、妊婦体験・新生児の抱き方等を参加者に体験してもらいました。そして、交流会を担当する学生が参加者の看護技術体験の案内や教材展示の説明を行いました。このことで参加者との交流が増え、交流会だけでなく移動中や技術体験の際にも学生と参加者がよく会話している様子が見られました。参加者から「看護師になりたいと思ったきっかけは何ですか」と聞かれ、本校を受験した時を思い出し看護師になりたい気持ちを再認識しました。

参加者から「オープンキャンパスに参加して、この学校について知ることができた。在校生の方々にたくさん声をかけてくださってとても楽しかった。」「充実した時間が過ごせた上に、看護の関心が高まったので、参加してよかった。」「第2回のオープンキャンパスにも参加し、色々な看護技術を体験したい。」「本校を受験したい。」という言葉をいただき、私たちも達成感を得ることができました。

私たちは、1年時のオープンキャンパスの反省をふまえ、参加者にとって有意義な時間が持てるように意見を出し合い、企画を考えました。そして、学生それぞれの役割に責任を持ち、教員と連携を図り、予定通りに進行することができました。このオープンキャンパスで2年生が団結して目標を達成する重要性を学べたと思います。この経験をこれからの学校生活や学習の中で活かしていきたいと思います。



第120回 日本循環器学会九州地方会にて最優秀賞を受賞

平成28年6月25日(土)、大分にて第120回日本循環器学会九州地方会が開催されました。

本学会の研修医セッションにおいて、当院の西村時紘先生が「ペーチェット病に起因する大動脈弁置換後の人工弁台座動揺を長期経過観察した1例」の演題で発表しました。西村先生は研修医2年目で、初めての学会発表でしたが見事に最優秀賞を受賞されました。

発表までは大変緊張されていましたが、発表内容、プレゼン、スライド、持ち時間、質疑応答とも高く評価され受賞となりました。

当該学会の研修医セッションでは、これまでも数人の先生方に発表していただきましたが、受賞は当院では数年ぶりのことであり、九州・沖縄で研修されている研修医の中で当院の研修医が第一位を取ったことは大変喜ばしいことであります。

研修医の先生方には、臨床においてもお忙しいことと思いますが、積極的に学会発表に臨み頑張ってくださいと思います。

今回の発表において、指導医や各科の先生方のご協力に感謝いたします。

今後ともご協力とご指導をお願いいたします。

(文責：鹿児島医療センター循環器内科部長 園田 正浩)

この度の受賞についてこのような紙面でご紹介いただき誠にありがとうございます。

九州地区の様々な病院が発表した中、表彰式で最優秀賞として「鹿児島医療センター」の名が挙がり、研修医の私をこれまで育てていただいたこの病院に少しでも恩返しができるようでうれしい思いでした。

発表演題を作成するにあたっては多くの方々にご協力いただきました。全面的に御力添えいただいた園田部長、田上先生、山下先生をはじめとする第二循環器科の先生方、アドバイスしていただいた心臓血管外科の先生方、発表を控えた私の病棟業務をサポートしていただいた脳血管内科の先生方、無理を言って画像データを即日提出してくださった医療情報管理室の皆さん、夜中に味噌ちゃんぽんを差し入れてくださった石川先生、その他鹿児島医療センターの多くの方々のおかげで受賞することができ感謝しきれない思いです。



今後もこの結果に甘んずることなく次に向けて精進していききたいと思います。

この度は本当にありがとうございました。

(文責：鹿児島医療センター臨床研修医 西村 時紘)

新任紹介

心臓血管外科

豊川 建二



7月から約9年ぶりに心臓血管外科に赴任いたしました。先日まで九大でTAVI(経カテーテル的大動脈弁置換術)の修練を積んでまいりました。高齢化・低侵襲化はここ数年大きな潮流

となって押し寄せ、ステントグラフト(SG)やTAVIなど低侵襲治療に代表されるように、術前の適正な評価やハートチームの構築と慎重な手技遂行など、この分野で求められるものは非常に大きなものとなってきました。IHD、VHDなど定例手術や解離手術はもちろん、安全かつ低侵襲な治療(SG・TAVI)の症例蓄積・導入にも力を入れていきたい所存です。患者さん、病院関係者のだれもがwin-winの関係になりますよう微力ながら努力してまいりますのでご指導・ご鞭撻のほど、よろしく申し上げます。

外科

井上 真岐



7月より鹿児島医療センターに赴任しました、外科の井上真岐と申します。

鹿児島大学心臓血管・消化器外科学分野(旧第二外科)へ入局し、県内の病院で主に消化器外科診療に従事してきました。鹿児島医療センターは多発合併症を抱える患者様方が多く、頭を悩ませることもありますが、各科の先生方にご協力頂きながら診療に携わっています。一日でも早く慣れて貢献できるような努めていきたいと思っておりますので、ご指導のほど宜しくお願い致します。

■お問い合わせ先

独立行政法人
国立病院機構

鹿児島医療センター (循環器・脳卒中・がん専門施設)

〒892-0853 鹿児島市城山町8番1号

(代)TEL 099(223)1151 FAX 099(226)9246 <http://www.kagomc.jp>

【地域連携】園田・谷口・田上・吉永・椎原・吉留・菊永・久保・櫻木・宮崎

【がん相談】松崎・森・水元・木ノ脇・原田・上妻

フリーダイヤルFAX専用▶0120(334)476

※休日・時間外は当直者で対応します。

